

第1回北海道地域学校協働活動推進研修会（道東会場）

【道東】平成29年7月20日（木）（帯広市・十勝合同庁舎） 参加者：156名

1 説明「地域学校協働活動及び放課後児童クラブの方向性について」

説明者 十勝教育局教育支援課社会教育指導班主査 一ノ関 太郎

十勝総合振興局保健環境部社会福祉課子ども子育て支援室 子ども子育て支援係長 七 條 公 英

地域学校協働活動については、国の動向や北海道の各事業の状況、今後の方向性について説明があり、放課後児童クラブについては、放課後児童健全育成事業や放課後児童クラブ運営指針、放課後児童支援員認定資格研修について説明がありました。

また、地域学校協働活動につながる諸活動、地域学校協働活動推進員の役割や具体的な活動事例について示されました。

参加者からは、「放課後児童クラブの運営について理解を深めることができた。」、「地域学校協働活動、放課後児童クラブの状況について知ることができた。」などの感想が寄せられました。



2 講義「子ども・思春期のメンタルヘルス」

講 師 北海道帯広保健所 健康推進課主査（保健指導） 中山 琴 江 氏

思春期の子どもたちの「こころ」とその成長について、説明がありました。

また、子どもたちの「悩み」や病気の症状としての「訴え」について、事例を用いながら、どのような指導や支援ができるのか、その方法等について紹介がありました。

参加者からは、「思春期の子どもへの寄り添い方を学ぶことができた。」、「思春期は難しい時期で不安定であり、大人の対応が大切だと感じた。」などの感想が寄せられました。



3 情報交流

進行 十勝教育局教育支援課社会教育指導班 社会教育主事 休 宮 裕 貴

参加者が小グループに分かれ、グループワークによる情報交流を行いました。

参加者がそれぞれの立場で、地域での子どもの現状、日頃の実践や課題等を共有し、課題解決に向けて何ができるかを交流しました。活発な議論が行われ、時間が足りないという声上がるほどでした。

参加者からは、「他地域の取組や工夫している話を聞いて勉強になった。」、「同じ職種でもそれぞれが抱えている課題が違って参考になった。」などの感想が寄せられました。



4 演習「資質向上のためのスキルアップ」

A 演習「子どもの体力向上につながるプログラム」

講師 NPO 法人幕別札幌内スポーツクラブ「Spo-RE(スポーレ)」

クラブマネージャー 小田新紀氏

子どもの体力や運動能力を高めるためのプログラムを参加者が実際に体験することを通して学びました。

また、複数で協力して行うアクティビティは、アイスブレイクとしての効果があることについての説明とともに、判断力を養う「コーディネーショントレーニング」など、楽しみながら体力向上につながる活動の紹介がありました。

参加者からは、「身近な道具で簡単に運動ができてよかった。楽しく実践できた。」「子どもたちともすぐに遊べそうなゲームの内容だったのでとても良かった。」などの感想が寄せられました。



B 演習「いろいろな文化体験プログラム」

講師 大樹町教育委員会 ALT チュング・アダム氏

小学校低学年から英語に興味や関心を持ってもらうことを目的として、子どもたちと一緒に楽しく活動できるゲームなどを、体験を通して学びました。

また、演習は、すべて英語で進められ、最初は戸惑っていた参加者たちも、徐々に慣れ、最後には笑顔で楽しんでいました。

参加者からは、「英語を身近に感じ、楽しめる内容でした。子どもたちも参加しやすいゲームでした。」「大人がやっても楽しく、レクリエーションやアイスブレイクに応用していけたらと思います。」などの感想が寄せられました。



C 演習「子どもの読書活動プログラム」

講師 帯広市図書館 司書 沼田陽子氏

読書の楽しさを伝えることや絵本に興味を持ち続けさせる手法、読み聞かせを行う際の基本的なポイントについて学びました。

また、講師が読み聞かせの実演を行いながら、絵本の選び方や読むときの工夫の仕方などについて説明がありました。

参加者からは、「絵本の選び方、読み方がよくわかった。見ている人だけでなく、読み手も楽しむことが大切だと思った。」「絵本の魅力、大切さなど、読むことの奥深さを知ることができた。」などの感想が寄せられました。

